



事例紹介 3（多頭飼育崩壊ケース）

対人援助学マガジン 32 号、35 号、41 号の「そうだ猫に聞いてみよう」にて、多頭飼育崩壊ケースへの介入事例を紹介しました。その時も書きましたが、多頭飼育崩壊に至ってしまった経緯や要因はケースによって様々です。今回紹介するケースもあくまで 1 ケースの事例紹介であり、すべての多頭飼育問題に通用する解決策を記述しているものではありません。多頭飼育問題の「問題」も「介入方法」も多様です。それでも、取り組みの積み重ねが何かのヒントになればといいと思い紹介することにします。

人もねこも一緒に支援プロジェクトに係わるに至った経緯

人もねこも一緒に支援プロジェクトの活動が、ABC 朝日放送のニュース番組「キャスト」で放送されました（映像が見たい方は YouTube で「キャスト 多頭飼育崩壊」と検索すると出てきます。20 分の特集です）。その 1 回目の放送が終わるかどうかという時に、人もねこも一緒に支援プロジェクトの HP から相談が入りました。

突然すみません。キャストの特集を見まして連絡しました。我が家も猫の多頭飼育崩壊になっていまして、役場や動物愛護センターに相談はしているのですが中々解決できなくて相談したいと思いまして連絡しました。

翌日、電話にて詳細をお伺いしたところ、相談者さんのご実家が多頭飼育崩壊状態になっており、近隣住民からの苦情を受け、愛護センターの指導が入ったそうです。その指導により、外中自由飼育の猫をなるべく室内に閉じ込めるようにしたものの、このままでいいのか不安である。という内容でした。

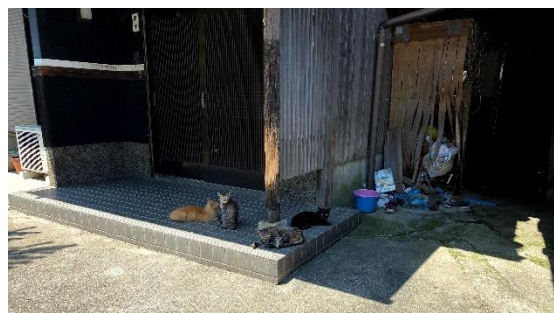
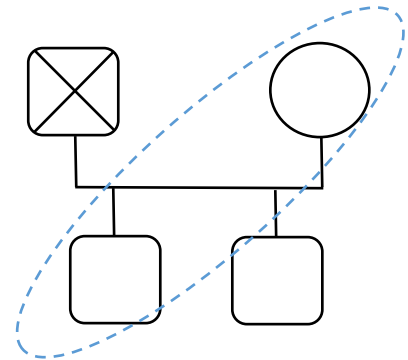
相談者さんの不安はもっともです。多頭飼育状態の猫を室内に閉じ込めたところで、室内でさらに繁殖を繰り返し、事態は悪化の一途をたどるはずです。一時しのぎの指導にもほ

どがあります・・・。

経済的には余裕があるわけではないが、生活保護の需給はしておらず、不妊手術にかかる費用を負担する意思もあるとのことでした。ひとまず家庭訪問をすることにしました。

家庭訪問。お家と猫の状況。

7年前にお父さんが他界され、相談者さんの実家を出たそうです。実家ではお母さんと障害をもっているお兄さんとの2人暮らし。保護猫のメス2匹をもらい飼い始めたそうです。そして、地域のノラ猫と繁殖を繰り返し、気がつけば30匹ほどに増えてしまっていたそうです。ここまで増えてしまった背景には、田舎ならではの外中自由飼育とお母さんが認知症を患ってしまったことも大きな要因としてあるようでした。



家庭訪問をすると、広い玄関で10匹ほどの猫さんが居ました。一度は室内にいたものの、出入りの際や家に空いている中から出入りしてしまっているようでした。



広い室内は、ゴミで埋まってしまっている部屋と、人が今も使っている部屋が分かれていました。寝室はケアマネージャーさんの支援により、ある程度片付けられていました。とはいえ糞尿の臭いがきつく、不衛生な環境になってしまっていました。また、猫がみんなガリガリでした。支援フードを開けると、沢山の猫が集まってくる状態でした。



この状態では不妊手術に耐える体力が心配なので、後日追加でフードを届けとにかく食べさせてもらうようお願いをしました。

■ 特有の課題

● ノラ猫と飼い猫の区別がつかず、個体把握不可。

猫たちが外中を自由に行き来しており、どの子が飼い猫でどの子がノラ猫なのかの識別が誰にもできない状況でした。頭数も多く、人馴れもあまりしていない為、個体把握も困難な状況でした。

● 近隣の放し飼いの猫問題。

緑豊かな田園地域なため、飼い猫を外中自由飼育することが当たり前のようでした。周辺を歩いてみたところ、100m 圏内でもお家の玄関先でのんびりお昼寝をしている猫さんも複数匹見かけました。その飼い猫たちが未避妊であれば、そこで生まれた子猫が相談者さんの家に流れてくる可能性が十分に考えられます。

相談者さん宅の「飼い猫」、近所の「ノラ猫」、近所の「飼い猫」この3カテゴリーの猫たちに不妊手術を実施する必要があると考えました。

■ 人ねこケアの介入計画

● まずは飼い猫とノラ猫の一斉不妊手術を実施

- 避妊去勢手術をすることでこれ以上の増加を防ぎます。また、不妊手術によりおしっこの臭い、発情期の鳴き声や喧嘩の声の軽減を図り、近隣住民の方の困りごとを少しでも軽減します。飼い猫とノラ猫の境が曖昧なため、敷地内を出入りしている猫は片っ端から不妊手術を実施します。

● 近隣住民の方への理解を求め、周辺の飼い猫の不妊手術につなげる

- 相談者さん宅の猫とノラ猫の一斉不妊手術を実施した後で、それを報告書にまとめ近隣住民の方へ説明に回ります。口だけでなく実際に動いていることを見ても

らったうえで、近隣の方が外中自由飼育している飼い猫の不妊手術をサポートをしたい旨を伝え、不妊手術希望者を募ることにしました。

不妊手術費、1匹あたり 3500 円は飼い主さんに実費負担していただき、それ以外にかかる送迎交通費などの一切の費用は、人もねこも一緒に支援プロジェクトで負担することとしました。

不妊手術

●第1回一斉不妊手術

大阪ねこの会の一斉不妊手術会に多くて 40 匹で予約をしまいた。手術日の前日の夕方から、捕獲作戦を実施し初日は 22 匹が捕まりました。翌朝に追加で 3 匹が捕まり、第一回目の一斉不妊手術は 25 匹の猫に手術を実施することができました。25 匹の猫たちが不在の間に、捕獲漏れの猫が何匹いるのか確認するために、お庭に餌をカメラを設置しました。その結果あと 3 匹ほど捕獲漏れの猫がいることが分かりました。



今回は初回の家庭訪問からキャストの記者さんが密着してくれました。キャストの YouTube でみることができます。

●第2回一斉不妊手術

第1回一斉不妊手術の実施報告書を近隣の方に手渡ししながら報告をし、第2回目の一斉不妊手術を来月に予定している旨を伝え、近隣の方が外飼いしている猫の不妊手術もその時に一緒に捕獲と病院の送迎をサポートしますと言って回りました。その結果、3件のお家が手をあげてくださり、計4匹不妊手術を実施することができました。飼い猫は不妊手術費実費は飼い主さんに負担していただき、送迎はこちらで無料で実施することとしました。2回の一斉手術で、飼い猫、ノラ猫、近所の方の飼い猫、合わせ、30匹の不妊手術を実施しました。あと、2匹ほど捕獲漏れのノラ猫さんがいる見込みです。

また、室内から生後1か月半ほどの子猫が2匹出てきたので、その子たちは保護し里親さんを探し譲渡しました。

実施報告書を近隣住民の方へ個別配布

第1回目の不妊手術の実施報告書↓。相談者さんと一緒になってリアクションがかえってくるのかドキドキしながら回りました。思ったより、好意的な方が多かったです。

ねこ対策実施報告

人もねこも一緒に支援プロジェクト（NPO 法人）では、[redacted]さんご家族から相談を受け、飼い猫および周辺のノラ猫の一斉不妊手術を実施いたしました。毎年繁殖と死亡を繰り返し、糞尿問題など近隣の皆様にはこれまで大変なご迷惑をおかしてしまい申し訳ございません。現在の法律では安易に猫を殺処分することはできません。そこで、猫問題の対策として現状できる精いっぱい取り組みとして不妊手術を実施いたしました。不妊手術により、これ以上の繁殖、発情期の特有の鳴き声、おしっこの臭いが軽減される見込みです。また、近親交配を繰り返して増えてしまった猫の寿命は2～5年程度と通常の猫に比べても短いです。すぐに問題の解消ができず申し訳ありませんが、NPO も継続的にご家族に関わり、猫が増えることがなく、緩やかに減っていくようサポートをしていきますので、ご理解いただけますと幸いです。

さくら耳が手術済みの目印です

手術を実施した猫には、その印に耳先にV字の切れ込みが入っています。このしるしが無いと、手術済みと分からずに、再捕獲されてしまうことが多くあるため、再捕獲防止のために実施しています。



今回不妊手術をした猫たち

2020年7月19日不妊手術を実施した猫たち。手術費用は[redacted]さんご家族が負担されました。



ご協力をお願い

現在、確認されている猫で3～5匹手術できていない猫がいます。全頭の不妊手術を実施するため、第2回の捕獲と手術を8月9日と、9月19日に予定しています。もし、皆様のお家に、耳カットの無い猫が来ているようでしたら、一緒に捕獲し、病院の送迎をNPOで実施させていただきます。飼い猫さんの場合は、不妊手術費用1匹あたり3,500円の実費をご負担いただける場合は、一緒に病院の送迎をさせていただくことも可能です。お急ぎで手術をご希望の猫さんがいる場合は、別途ご相談ください。※[redacted]さん宅周辺の方に限らせていただきます。

情報提供、猫の手術のご相談はこちら 070-2291-0780（担当：小池）

※「[redacted]の猫の件で」とお伝えください。

スケジュール

今回紹介した内容がどのくらいのペース配分で進んだのか、下記にスケジュールをまとめました。

日程	実施内容
6月12日	HPお問い合わせから相談 飼い主さんの次男さんから相談が入った。
6月23日	初回家庭訪問 家庭訪問を実施
6月24日	メス1匹不妊手術 妊娠が疑われるメス1頭を不妊手術
6月25日	キャットフード追加支援 不妊手術に耐えられるように猫たちを太らせる。
7月18日	一斉捕獲 翌日の一斉不妊手術に合わせ、前日の夕方から捕獲を実施。 初日は22匹の捕獲が完了
7月19日	一斉手術と捕獲漏れの猫の送迎 前日の夜から室内に捕獲器を設置してもらい、3匹が追加で捕獲器に入ってくれた。手術会場に運び、前日に捕獲された子たちと一緒に不妊手術を受けた。
7月20日	リターン 不妊手術を終え、病院で一泊した猫さんたちを飼い主さん宅に戻す。
8月1日	近隣住民の方への実施報告回り 不妊手術の実施報告書を作成し、近隣住民の方へ説明回り。合わせて、飼い猫の不妊手術サポートを提案。
8月8日	第2回一斉不妊手術 飼い主さん宅で1匹、近隣住民の方の飼い猫3匹の不妊手術を実施。
8月9日	不妊手術（大阪ねこの会手術会場にて）
8月10日	リターン
9月6日	子猫2匹保護 お家の中から出てきた子猫2匹を保護。

手術、その後

一旦猫の問題には一区切りがついたので、室内の環境改善は、相談者である次男さんと、ケアマネージャーさんたちとで相談がなされるそうです。ただ、認知症のお母さんと障害のあるお兄さんの2人暮らしには限界が見え始めていました。飼い主さん親子が施設に入所することになった場合、残された猫たちをどう保護していくのか、あるいは不妊手術が終わ

人もねこも一緒に支援プロジェクトの「飼い続ける支援」では太刀打ちできない壁が「飼い続けられない飼い主さん」の問題です。とはいえ、ここでどうやってそういうお家から猫を引き取れるようになるか、という方向を検討するのではなく、私はどうやったら多頭飼育崩壊を未然に防ぐことができるのか。の予防的な方向を一生懸命考えていきたいと思います。

記録や情報の保管は問題を考えるうえで、とても大切なことです。家庭訪問時に、聞き漏れ等がないように、家庭訪問時のヒアリングシートを作成し、使うようになりました。結構使いやすいので、人もねこも一緒に支援プロジェクトのHPにテンプレートをUPしました。多頭飼育問題と関わっておられる方々やこれから関わる方々の役に立てれば幸いです。

【視察】家庭訪問ヒアリングシート	
飼い主氏名	訪問日 2020年4月8日(月)
住 所	電話番号
訪問者	訪問時間
家族構成と関係機関(福祉機関等)	猫の頭数・家系図等(避妊手術の有無)
多頭飼育の経緯と時期	
2005年から飼っている猫が4匹いる。その後猫を3匹返す、 外ネの保護をして入れて増えた。 今も室内飼い。苦情なし。今年に増えた。腹水で2ヶ月前に亡くなった。	
猫の人馴れ具合	良い 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 悪い
猫の健康状態	良い 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 悪い
猫の個体識別	可 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 不可
不妊手術の意志	あり・なし 費用負担 可能・分割なら可能・不可能
今後の計画	
大阪の会、1ヶ月2、7ヶ月、12/12-13で7ヶ月、 1ヶ月4ヶ月6ヶ月7ヶ月210,000-	

A person with short dark hair, wearing a dark jacket, is sitting on a paved path. They are looking out over a valley. A wooden fence runs along the path. The background shows a hazy landscape with trees and hills.

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク
「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表
仕事：猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」として開業。